

第 1 回研究会における委員からの主な意見

- ・ 農協の先進的な取組について、もっと具体的に分析を行い、なぜその取組が成功したのか、取組が拡がらない要因は何かなど議論していくことが必要。
- ・ 単位農協がどうしていけば、農業生産力の向上につながるかという視点で議論が必要。
- ・ 戦前や戦後は、農協の組合長などが率先して多様な農業のビジネスモデルを作ってきたが、最近はそのようなモデルがない。農業生産額を増やすため、地域の単位農協レベルでビジネスモデルを作ることが重要。
- ・ 農協や連合会は、各地域で置かれている状況が異なっており、全国一律で農協、連合会の新しい事業像を決定するのではなく、営農類型や地域環境も含めた形で決めるべき。
- ・ 農協には、生協とも連携しながら、生産から消費にかかるフードチェーン全体がより良いものとなるように取り組んで欲しい。
- ・ 消費者に信頼される食料を安定的に供給することができる農協を実現するためにはどうすればよいかを議論すべき。特に栽培履歴管理やコールドチェーンの確立による鮮度管理などが重要。
- ・ モノを売っていくに際して、どのような形で、どのような価値をつければ、どれだけ売れるのかなどを具体的に議論していきたい。
- ・ 農業者の意識を変えられない農協にも問題。農協や全農をどうするのかという議論を超えた農業をどうするかという視点が必要。
- ・ 農協批判ではなく、日本の食と農が大転換期にあるという観点から、トップランナーの農協に期待すべきことを議論すべき。
- ・ 農業の振興や農を基軸とする地域振興という観点から農協を議論していただき、それを 10 月の J A 全国大会の議案にも反映していきたい。

